

# 仙石陣屋から版

第六十二号  
(平成二十二年四月号)

HP: <http://www.town.shiraoi.hokkaido.jp/ka/jinya/> Mail: [jinya@town.shiraoi.hokkaido.jp](mailto:jinya@town.shiraoi.hokkaido.jp)  
〒059-0921 白老町陣屋町六八一 TEL&FAX 0144-851-666 仙石藩白老元陣屋資料館発行

## お世話になりました。学芸職の坂本啓恭より

今年の雪はなかなか融けないですね。もうそろそろ鯉職を揚げなければならぬのに……。たった三年間の経験ですが、例年よりもゆっくりと季節がめぐっているように感じます。

そのような思い出を振り返る私ですが、三月いっぱいを持ちまして、三年間お世話になった仙石藩白老元陣屋資料館を退職することとなりました。これまでお世話になりました皆さんには、本当にありがとうございました。とうとうさよならです。

白老は、私にとって本当に魅力の多いまちです。陣屋の武士たちの記憶、アイヌの歴史と伝統、水と緑にかこまれた環境、日本の発展を支えた馬産、多様で豊富な食料等々……。それら、愛すべき文化に携わる仕事ができ、三年間の思い出は、これからの人生にとって掛け替えの無い宝物です。今後どこにいても、私はこの大切な宝物を誰かに語り伝え、紹介して行きたいと強く思います。

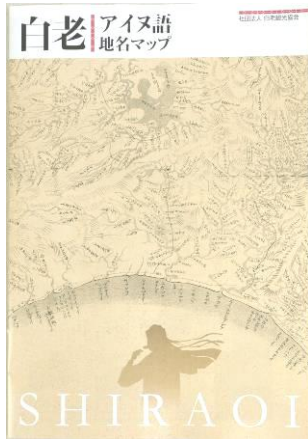
皆さんもどうか、この素敵な白老の文化を、未来に向けて守り育ててください。それは皆さんだからできることなのです。ありがとうございます。

## 白老地域文化大学、三年間を修了

第三十五回、平成二十一年度最後を締めくくる白老地域文化大学講座を、講師に苫小牧駒澤大学で教鞭をとられる岡田路明氏をお招きし開講、白老に伝わるアイヌ語地名について講演いただきました。また、講座終了後には平成二十一年度修了式を実施、年間八回以上出席された二名の皆勤賞を含む計十六名の修了者に、中村齋学長から修了証書が手渡されました。

今回のテーマは、昨年九月から白老観光協会を中心に制作検討委員会を立ち上げ作成してきた「白老アイヌ語地名マップ」についてです。町内に残るアイヌ語地名について、中村学長や岡田教授など七名で幾度にも及び会合と修正を行い、ようやく完成に至りました。

マップを開くと、結構な頻度で「解りません」といったフレーズ



「白老アイヌ語地名マップ」の表紙

を目にされることと思います。不思議に感じられるかも知れませんが、アイヌ語地名への接し方ではこの姿勢が大切です。道内に数多く残るアイヌ語地名ですが、実際にかつての意味を辿れない場所も多く、岡田教授も「無理な解釈は止めていただきたい」と地名研究に対する姿勢を説いて締めくくられました。単なる言葉遊びに興じるのではなく、かつてその地名と共に暮らした人々への思いを寄せてみては、ということなのでしょう。

なお、マップは三万部発行されていますが、ご希望の方は、観光協会はじめ陣屋資料館や白老コミセンまでどうぞお早めに。そして冊子を片手に、是非とも彼方此方と訪ね歩いてみてください。新たな発見に繋がること請け合いです。



「郷土の伝承に耳を傾ける学生達」

さて、月日の経つのは早いもので、平成十九年から継続してきた地域文化大学も、二十二年度を以て丸四年、一区切りとなります。最後の年ならではの企画も精力的に幾つか予定しています。現段階では未確定ですが、いずれ詳細をお伝えします。ご期待ください。

## 「仙台藩白老元陣屋の二十五年展」開催中!

陣屋資料館では四月十一日まで、標記企画展を開催しています。二十五年という歳月の間に、町人も、そして陣屋も、実に様々な出来事を経験してきました。しかし、かつて行った企画展の資料と、思い出は色褪せることなく残されています。ずらりと並んだ展示を一覧すれば、必ずや昔の様子が目の前に鮮明に浮かび上がることでしょう。



〈資料の数だけ、

人々の思いも残っています〉

積み重なった雪も、ようやく溶け始めています。早春の史跡を散策する傍ら、陣屋資料館がみなさんとともに歩んだ歴史へ、思いを馳せてみては?

## 地域文化 大学叢書、全道に発信

近頃の『地域文化大学叢書』の躍動振りには、我ながら目を見張るものがあります。つい先だっても北海道立図書館より大学叢書一式の寄贈依頼を受けました。事務局では是非もなくこの申し出を受諾、早速これまでに刊行されていた冊子九冊全てを寄贈しました。

これを機に地域文化大学の存在と活動内容が、そ

して学生達の故郷に対する熱意が、より広く発信されていくことを願って止みません。

それにしても、最近は一立続けに寄贈依頼が舞い込んできます。白老町立図書館に続き、ついに全道に向けて大学の活動が伝わることとなったのです。いずれ国会図書館からも、こうした依頼を受ける日が来るかも知れませんね。



〈札幌でも叢書を読める!〉

## 萩野中学校に、今年も若武者が登場

昨年からは萩野中学校で行っている出前講座、「鎧・兜」の試着体験授業を今年も実施しました。



〈さあ、闘の声をあげよう!〉

複製品ではあるものの、法螺貝や火縄銃などを含めて初めて触る資料に、生徒達は終始興奮気味。口々に「重い」などといった感想を洩らしながらも、積極的に参加してくれました。最終的に三人の若武者が誕生。彼らからは「着心地いい」「格好いい」といった意外? な言葉も貰うことができました。

## 四月と五月も、企画が盛りだくさん!

今年で七回目となる刀剣展「日本刀の輝き」短刀の魅力」展を四月二四日から五月九日の日程で開催します。今回も元刀剣登録審査員であり、月に一度室蘭市で刀談義を主宰されている鳥羽達一郎氏(札幌市)のほか、日本製鋼所室蘭製作所瑞泉鍛刀所の堀井刀匠、愛刀家横山敏夫氏(竹浦在住)に全面的な協力をいただいていたの展示会となります。初日には展示解説会や日本刀よろず相談会も催しますので、是非お越しください。

また、四月十七日から五月六日まで、こちらも恒例の「武者人形展」を開催します。凛々しくも雄々しい顔立ちの五月人形が、陣屋資料館ロビーに一同に紹介します。さらに五日の端午の節句には、陣屋資料館友の会協力の下、「こどもの日企画」を予定。折り紙の兜作り体験を始めとしたイベントを数多く用意していますので、ご家族揃ってお立ち寄り下さい。そして連休明けに向け、英気と士気を養っていかれては如何でしょうか。

この頃には、白老一の史跡の桜も盛りとなっているかも知れません。仮に桜がまだ寝惚けていても、資料館は大いに活動中です。一度訪れるだけで数回分も満喫できる企画が目白押しですので、お楽しみに!

「仙台陣屋かわら版 第六十一号(平成二十二年三月号)」

発行日: 平成二十二年三月二四日

発行所: 仙台藩白老元陣屋資料館 担当者: 平野・坂本